

投函日 12/18

氏名・住所 佐藤 めぐみ、野原 望、持安 弘行

ご意見 (原文そのまま)

## 「かみ心での食物アレルギー対応」について

師走の候、貴職におかれましては『町民の声で「かみ心」を創ります』と三児のパパとしての経験をもとに「様々な教科の内容を理解し身につけることは重要であり、肌で感じた経験はかけがえのない財産となる」との信念のもと、子育て中も働きたい、息抜きしたい、そんな保護者の声を大切に、親子にとって有意義な育児と成長の時間を得られる環境を目指しご尽力いただいていますこと、町民として感謝申し上げますとともに、ご期待申しあげるところであります。

さて、標記「食物アレルギー」について、話し合いの場をもっており、これまでの皆さんの声を文字起こししましたので、お聞きください。

### 「テーマ:食物アレルギーについて話し合ってみようよ」

#### ★チェックイン(略)

「町民の皆さまあーん、食物アレルギーって知っていますかあー？」

「あなたが、経験したことはどんなことですか？」

自由に話し合ってください。」

★「アレッ子娘、先日、牛乳自宅負荷でアレルギー症状出てガッカリしていました。でもそんなことではもうめげない私達！」「先生が組んでくれたスケジュール は、私と娘の精神的負担が大きくスケジュールよりスローペースで進めて

います。でも、一歩ずつ前に進んでいると信じています」

★「色々経験し、最近アレルギーの症状を怖がるようになってしまった娘。それでも、頑張ってくれています。0歳からずーと、今は、アレルギー表示も、自分で見られるようにと努力し、自分の身は自分で守れるようにと訓練中です。笑顔で、でもママは辛い」

★「そうなんだあー 子ども自身で確認できるような年頃になってきたなら、それは大事なことだね。うちの息子も、表示見たり、わからなければ大人に『食べられる』と聞くようにさせています。今は私が言わなくてもそうなってくれて います。頑張ってくれていると思う。……この話をすると私もなんだか 泣けてくる」

★「町中の行事、子どもの集まりでありがちな小分けにして配られる大袋のお菓子にはアレルギー表示がない。このことの怖いこと。分からない時は、全部 親の

口に入ります」

★「そうそう、地域でのイベントで配られるお菓子、食物アレルギーについて知っていますか？アナフラキシーショックを起こした時の対応要領、エピペンなど 知っていますか？と言いたい。」

★「地域にアレルギーを理解し、適切に対応してくれる方が増えると、安心なんだ けど、救命救急(AEDの取扱い)みたいな講習会が輕易にあればいいね」

★「そうそう、災害時の対応はどうだろうか、表示はしてあるだろうけど、28品 目不使用非常食の除去食備蓄はあるのだろうか？」

★「そうだね、町に聞いてみよう…どうやって、町民ポストがある、私には…」

★「でも皆で声を上げないと何も変わらないと思う…そうだね うん・うん」

★「非常時も含め、誤食が、命に関わるので、正確なアレルギー表示が命綱、理解 してくださる方が増えると安心が広がる。食物アレルギーについて、皆に知って もらいたい、理解してもらいたいと願っています。知らないなら、知ってくださ い。と声を上げ たい」

★「そうだね、町で食物アレルギー講座・研修等計画・実施してくれればいいいの けれど。声に出すとともに、私たちが何かできないか考えてみようかな」

★「本当に皆に知ってもらいたい。娘も、表示が確認できないと怖がって、手 を つけなくなりました。安心と楽しさは繋がっている。親の心が反映されているので しょう……反省する事も多々あります。怖がらせているのもわたしののですが」

★「不機嫌は伝染する。これ駄目だよな。子どもがイキイキ、大人が生き生き、地 域が 生き活きだよな」

### ★中 略

★「先日学児健診(10月)があり、担当職員の方から「学校生活管理指導表(アレル ギー 疾患用)」を渡され、マニュアルに従って丁寧に説明を受けました。これか ら、担当医に 記入してもらい、来年2月1日の体験入学時に、学校担当者に渡す つもりです。」

★「ただ、同じ年頃の子を持つ保護者が集まっている日、担当の方から「食物アレ ルギ ーでお困りの方、関心のある保護者の方、お時間許すようでしたら、この場 に残って ください。一緒にお話ししましょう」と声掛けしてほしかったな」

★「そうだよな、私たち以外にもアレッ子のママはいると思う。同じ悩みを持つ方 の話 を聞き、話を聞いてほしかったし、担当職員にも聞いてほしかった。その日 に時間がないのであれば、別の日にお話し会を設けていただきたかった。個人情報 はわかる けど」

★「学校でのアレルギー対応について、もっとお聞きしたかったな。学校に子ども が通 いだすと、聞きづらくなるような気がする。」

★「学校では誰に話せばいいのだろうか？ ある人から聞いたけど、 アレルギー対応委員会が設置されている学校があり、委員の方に聞けると 聞いたけど、上富の学校には設置されているのかな？ 設置されているとすれ ば、 どんな方が委員だろうか？ その委員とつながる場はあるのだろうか あるとすれ ば、それは何時だろうと不安になる」

★「学校でもしアナフィラキシー症状がでたら、その場にいた先生は対処できるの だろ う か？ アレルギー研修等の学びは学校ではあるのだろうか？」

★「他の子供たちにも、アレルギーについて知ってもらいたい。」

★「5歳以下の乳幼児の10人に8人が、食物アレルギーの症状がでるといわれている

今、子どもたちもいずれは親になる。もっと身近にアレルギーについて触れる 機会があってもいいのではと思う。その子らしさを認める町をめざして。」

★「保育園等に『食物アレルギーが分かる絵本』があり、幼児期から肌で感じることができれば、もっとみんなが暮らしやすい町になると思う」

★「教育長・教育委員会委員・担当者職員・給食関係者(栄養士等)・食物アレルギーを抱える家族等と定期的な話し合いの場があればいいね そんな場があれば 素晴らしいな」

★「幼稚園でのことだけど、毎年の豆まきでは、幼稚園から『豆まきの日は休んで下さい』と2年連続で言われた。鬼退治用の豆入れ作ったけど、息子から『これいつ使うの?』と言われ、勇気を出して声にしたところ、次の年から、豆は大豆を使用してくれ、息子も参加でき『友達と参加して楽しかった』と息子の笑顔、

栄養士さんの神対応に感謝。ありがとうございました。今でも涙が出ます。」

★「うんうん、そうだよね。学児健診の時、除去食について担当者に尋ねると『給食で対応できかねる場合は、弁当を持参していただかなければなりません』と言われた。」

★「弁当持参は仕方ないのかな？ コンタミであれば飲み薬で対応できるけど な、ただ弁当を一人食べる我が子を想像すると悲しい。食は文化ではと思う。」

★「働いているから、『弁当』と一言で言われても、大変だよね。仕事と家庭とでメンタルやられることあると思う。たまには休み欲しいよね」大人が生き生き、子供がイキイキ 甘えかもしれないけど」

★「息子の場合、魚卵は小学校では対応してくれている。担当医の助言もあり、普段は皆と一緒に給食ができる。みんなで同じもの食べて【美味しいね】って言う感情は、子どもの成長には大切だと思う。食の思い出というか、みんなと同じメニューだと、めっちゃめっちゃ良い顔をしたのをはつきり憶えている。気持ちわかるな」

★「保育所では、アレルギー除去食別メニューで対応してくれていた。お皿を白から、アレっ子はピンクで対応してくれていた。栄養士さんが食品表示の詳細を毎週示してくれていて、安心したし、本当に嬉しかった。」

★「卵と牛乳で栄養をとらなければと、栄養士さんは言うけど、豆乳でも栄養はとれるので はと思うけど。」

★「除去食は栄養士さんの問題だけではなく、給食センターの経費(人件費、改修費 など)が問題となるのかな・・・お金(税金)がかかると言われたら・・・」

★「でも、月・期・年1回は全生徒で「除去食」を食する日があってもいいと思う。『食の大切さ、楽しさ』を理解すること、そして食物アレルギーについて全校 生徒・児童が肌で感じ・知る絶好の機会だと私は思うけど」

★「防災の日にアレ食提供してみんなで食べるのもいいかも、実際、園で実施されている」

★「学校での掃除、給食当番、調理実習、クラブ活動等はどうなるのかな？ 調理実習、掃除当番は外れるのかな？ 娘の場合、もし外されるのであれば、他の生徒・児童への説明はどのようにされるのかな心配、一緒に掃除・給食当番でき

なくて一番辛いのは誰か？、児童・生徒で話し合っってその子の思いを共有してほしい。」

★学校には、食物アレルギー対応マニュアルあるのかな あるとすればその内容を 知りたいなあー」

## ★まとめ

「話し合った中で、大切にしたいポイントは何ですか？

意見を出し合い太字にして下線を引いてください。」

「次に今の大切にしたいポイントで、自分たちでもできる事項、努力すべき事項を青字に、町に要望する事項を赤字に、話し合いながらやってみましょう」

以上話し合った内容です。

---

私達も同じ悩みを持つ保護者の集う場を設け、「食物アレルギーに関する悩み等について聞き・話し、できればエピペンなどの講習会を開催する「アレっ子ママの集う会(仮称)」の設立を目指し努力いたします。

町長様には、親子にとって有意義な育児と成長の時間を得られる環境を目指し、ご尽力いただいておりますが、今、食物アレルギーの子は5歳以下の乳幼児の10人に8人が、1歳に満たない子どもで10人に1人が発症すると言われております。そんな子どもたちが集団生活の中で初めて「食べる」ことを経験する場、それが給食です。

今の子どもたちもいずれは親になることでしょう。

「食育」という言葉があります。

子どもたちに対する「食育」は、心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼし、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性をはぐくんでいく基礎となるものと言われております。

そこで、以下六つの事項を要望いたします。

1. 全国で食物アレルギーを持つ子どもが増加傾向にある中、わが町の保育園等に『食物アレルギーが分かる絵本及び読み聞かせ会の開催』があり、幼児期から肌で感じ、触れることで、ごく自然に「いごちの良いまちづくり」につながるのではないのでしょうかご検討ください。

2. 地域にアレルギーを理解し、適切に対応してくれる方が増えると、安心です。

私達も努力いたします。町でも食物アレルギー講座・研修等計画・実施していただければと思います。ご検討ください。

もし講座等の開催を検討していただけるならば、講師決定の際、私達にも声掛けしていただければ幸いです。

3. 各家庭でも備えており、備えるように会で話し合いますが、町は災害時の食物アレルギーの対応はできているのでしょうか？ もしできていなければ、アレルギー特定原材料等 28品目不使用非常食の備蓄について、ご検討ください。

4. 学児健診などの場を活用して、学校での食物アレルギー対応について、情報共有する場があればと感じています。色々心と心の準備等ありますので、学校等関係機関との情報共有の場について、ご検討ください。

5. 町長、教育長、教育委員会委員、担当者職員、給食関係者(栄養士等)、食物アレルギーを抱える家族等と定期的な話し合いの場があれば、安心してその子の成長に寄り添うことができると思います。ご検討下さい。

6. 学校給食を月に一回、できれば期に一回、最低でも年1回は全生徒で「除去食」を食する日があってもいいと思います。

学校給食は、児童生徒等が「食の大切さ」「食事の楽しさ」を理解するための教材としての役割も担っていると思います。その場を通して、食物アレルギーについて全校生徒・児童が肌で感じ・知る絶好の機会だと思えます。除去食を全生徒・児童が食する日について、ご検討ください。

以上6項目についてご検討いただきますようお願い申し上げます。

ご検討いただけない場合は、その理由を、ご検討いただける場合は、そのプロセスについてご回答をよろしくお願い申し上げます。

私達も微力ではありますが、町民としてSNSを活用して食物アレルギーの周知に努め、一人でも多くの方が食物アレルギーについての理解とその子に寄り添う適切な対応ができるいごこちの良いウェルビーイングな町づくりに興味を持ち、関与していただけるよう努めたいと思います。

## 回答

◎所管課 保健福祉課

### 1. 子ども園等での対応について

各園においては入園時に保護者から調査票を提出いただくとともに、さらに聞き取りも行って調査しており、アレルギー対応食をトレーの色や札により区別して、事故の発生リスクを防いでおります。

園児においては、アレルギーの詳細を理解することは年齢的に難しいと思いますが、アレルギーのあるお友達はトレーの色が違うことで、食べられない食材があるということを周りの子ども達も認識しているとお聞きしております。

また、栄養士による定期的な食育教室等を行い、子どもたちが栄養について学ぶ機会を設けておりますので、ご提言のありました「食物アレルギーが分かる絵本及び読み聞かせ会の開催」については、各認定こども園と定期的開催している会議で情報提供してまいります。実施につきましては各認定こども園の運営にゆだねることと思いますのでご理解願います。

### 2. 講座・研修等計画・実施について

町といたしましては、保健師・栄養士が専門職向けのアレルギー研修会に参加し知識を深めており、定期の乳幼児相談(7か月相談、10か月相談、1歳児の幼児食ぱくぱく相



談)や健康診査(4・5か月健診、1歳6か月健診、3歳児健診)の個別相談時に、食物アレルギーがあるこどもに対しては、基本的に病院でのアレルギーの診断による、かかりつけ医師からの指示内容を確認しながら相談を行っています。病院でのアレルギーの診断がなく、アレルゲンかどうか分からない食品の除去は、こどもの成長・発育にとって必要な栄養の不足やバランスの偏りに繋がるためです。

また、同じ食品のアレルギーでも、そのこどもによりどのように摂取を進めていったら良いかは、経口負荷試験の結果などにより様々であり、アレルギー以外の食の背景もその子により様々であるため個別での関わりを重要視しています。

以上のように、アレルギーは個別性があることから、乳幼児相談・健康診査等で個別対応を行っており、まずは保護者やこどもの理解を深めることが一番と考えております。

#### ◎所管課 総務課基地調整・危機管理室

#### 3. 災害時における避難所用防災備蓄品及び家庭用備蓄品に係るアレルギー対応について

防災備蓄品の食品類については、保存パン・補助食・アルファ米・乾燥スープを備蓄しております。ご意見がありました、食物アレルギーについては、なるべく対応した食品を備蓄するよう努めているところであり、アルファ米及び乾燥スープについては、アレルギー物質28品目を使用していないものを選定しております。

今後についても、アレルギー物質を配慮し備蓄計画をすすめてまいりますので、ご理解をお願いいたします。

#### ◎所管課 教育振興課

#### 1. 読み聞かせ会の開催について

ご意見にあります食物アレルギーに関する本は、図書館「ふれんど」において蔵書しておりますので活用していただければと思います。また、読みたい借りたい本の希望がありましたら、図書館にお問い合わせください。(参考:「アレルギー」検索21冊、絵本・児童書・一般書)

#### 4. 学校での食物アレルギー対応について

例年10月に小学校入学予定者の就学時健康診断を実施しており、その中でアレルギーに関する調査も行っています。必要に応じて、学校生活管理指導表の提出をお願いしており、これに基づき学校「校内食育委員会」において取組プランを作成し、2月の入学説明会時に保護者と面談を行います。

また、在学児童生徒については、毎年1月に食物アレルギー調査を実施し、状態の変化を確認することとしています。

相談など限られた時間となっていますので、不明な点がありましたらお問い合わせ願います。

## 5. 定期的な話し合いの場について

ご意見にあります話し合いの場として、広報広聴事業「町長と語ろう」や「出前講座」などの活用はいかがでしょうか。これらの機会を踏まえて、更に必要な場については、関係先と相談させていただきたいと思います。

## 6. 学校給食での「除去食」について

現在の給食センターの施設機能上(除去食に対応する専用の調理室無し)、除去食に対応する調理は困難です。また、全体への除去食提供に関しても、食材調達や調理面の課題がありますことから難しいと考えます。

このような現状から、給食センターでは給食に使用する食品を給食だよりに掲載し周知を図るほか、アレルギー原因食品の代替品提供を行っています。「個包装ヨーグルト⇒小魚だけの小袋、揚げパン⇒コッペパンとジャム、牛乳⇒紙パック緑茶)」

また、個別の対応が必要な児童生徒については、詳細な食品の成分をお知らせするなどの対応をしています。